

SOTUKEN PRESS vol.12

平成 22 年 3 月 30 日 発行

卒後研修センター

TEL:022-717-7765

FAX:022-717-7143

HP:<http://www.hosp.tohoku.ac.jp/sotuken/>

初期研修を振りかえって

犬飼 美穂 先生 (ホスト科:産婦人科)

2年間の初期研修も残すところわずかとなりました。産婦人科志望の私は、初めに産婦人科を半年間研修し、その後麻酔科、NICU、胃腸外科など産婦人科と関わりの強い科を研修させていただきました。実際に各々の科の立場で研修することにより、産婦人科研修中に感じた疑問が解決したり、異なった視点を養うことができたと思います。内科は東北公済病院で研修し、内科疾患のプライマリーケアや癌治療について、また循環器内科では虚血性心疾患や心電図について勉強させていただきました。知識や手技を習得できたことはもちろんですが、2年間を通して、多くの科の先生方と人間関係を築くことができたことを最も嬉しく感じております。今後判断に迷ったときにも各科に相談できる先生方がいらっしゃると思うと非常に心強いです。ご指導してくださった先生方やスタッフの方々に心から感謝し、広い視野を持った産婦人科医を目指したいと思



生方やスタッフの方々に心から感謝し、広い視野を持った産婦人科医を目指したいと思

渋谷 祐介 先生 (ホスト科:産婦人科)

「俺ももう医者なんだから何でもできる！」
というような大きな気持ちでスタートした初期研修でしたが、始めて数日で何も知らなかったということに気



付き、打ちのめされました。しかし、それが本当のスタートだったのかも知れません。落ち込んでいる時などにかけてもらった暖かい言葉に支えられ、一つ一つ出来ることを増やし、外の病院での研修も積むことで少しずつ自信をつけていくことが出来ました。大学病院での研修は自由度が高く、最初に興味のある診療科で研修を行い、そこで「何を学ばなければならないのか？」という目的意識を持って必修科を回れるなどの利点があります。また、要求されるレベルが高い分、達成できたときの喜びは大きいものです。この2年間は、かけがえのない体験をさせて頂き、人間として一回り成長することが出来たと思います。指導医の先生方を初め、スタッフの方々への感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。